

平成30年7月豪雨災害への取り組み（天龍村折立編）

◆西日本地域を中心に各地に甚大な被害が発生した7月豪雨災害では、長野県内各地でも7月4日から7日迄の間、県南部を中心に、近年、稀に見る豪雨に見舞われました。

この豪雨により、南信州地域振興局管内では、天龍村、飯田市南信濃、大鹿村を中心に、17 か所で、被害額 152,576 千円に上る山地災害が発生しましたが、幸いなことに、山地災害に伴う人的被害及び家屋被害は発生しませんでした。

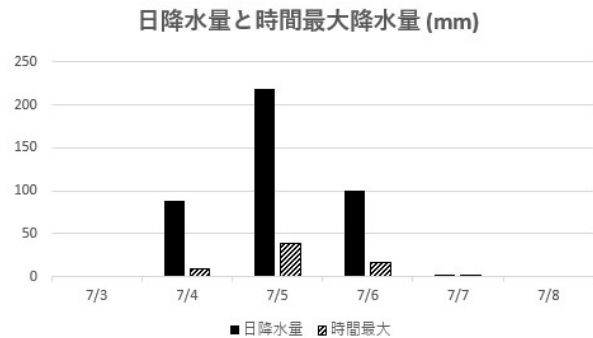
◆南信州地域振興局では、これらの山地災害に対し、必要性、重要性、緊急性の観点から、至急、対応が必要な箇所に対し、「緊急調査」、「応急工事」、「災害関連緊急事業」等の、各種の災害復旧制度を活用し、地域の安全・安心を守る治山工事を実施しています。

◆ここでは、天龍村折立で実施した応急工事をご紹介します。

◆降雨状況

長野県が天龍村平岡に設置した雨量計では、7月4日から7日までの3日間に、連続降雨 410mm、日最大219mm、時間最大38mmの豪雨を観測しました。

昭和 36 年、伊那谷の広い範囲で甚大な被害が発生した三六災害では、飯田測候所で6月 23 日から7月1日迄の9日間に、総雨量 577.8mmが観測されており、降雨連続期間こそ短かったものの、短期間の降雨強度では、三六災害時の降雨状況を上回るような豪雨となりました。



◆被害発生状況

天龍村折立地籍で発生した土石流により林道の橋梁が閉塞し、土石流が溢れ、林道を伝って下流の人家の敷地に土砂が流れ込みました。

橋梁は殆ど閉塞しており、今後の降雨により再び土石流が人家に流出する危険性が高かったため、早急に排土工事を行って、安全な河道流下断面を確保する必要があります。



◆工事実施状況

一般的な公共工事では、工事を発注するまで2ヶ月間程の長期間を要しますが、今回は、一日でも早く対策工事を行うため、「応急工事」制度を活用し、この期間を2週間程に短縮し、短期間で対応することが出来ました。



◆工事完了状況

閉塞していた橋梁や周辺の河道内に堆積していた土砂をきれいに除去し、安全な河道流下断面が確保され、川が溢れる心配が無くなりました。



施工：(株)南建設 天龍営業所

◆南信州地域振興局 林務課では、これからも、地域の皆様の安全・安心な生活基盤を守るため、山地災害に対する発生防止対策や、早急な復旧対策への取り組みを、積極的に進めていきます。